

2022年9月JGW全国特別集会

主 題：

神の永遠のエコノミーの天的ビジョン—
キリストのからだの有機的な建造のための、
わたしたちの生活と働きを制御するビジョン

標 語：

神の永遠のエコノミーの天的ビジョンは、
わたしたちの中で日ごとに更新されて、
わたしたちの生活と働きを制御する
ビジョンとならなければなりません。

メッセージ 1

神の永遠のエコノミーの回復

聖書：使徒26:16-19. I テモテ1:3-6. 6:3-4.

II コリント11:2-3. II テモテ4:22

I. 「回復」とは、破壊や損失を受けた後、正常な状態へと復興すること、あるいは戻すことを意味します：

- A. 召会は、何世紀にもわたる歴史を通して墮落してしまったので、神の当初の意図にしたがって復興される必要があります——創2:7-25. 啓19:7-9. 21:2, 18-21. 22:1-2, 17前半。
- B. 「回復」とは、初めに戻ることを意味します。わたしたちは初めに戻り、主の恵みを受けて神の当初の意図に、すなわち初めに神が定めたことに戻る必要があります——マタイ19:8。
- C. 召会と、召会の内容、美しさ、栄光としてのキリストに関して、わたしたちのビジョンは、現状や伝統的な慣例によってではなく、神の回復の現在の前進にしたがって、聖書の中に啓示されているように、神の当初の意図と標準によって支配されるべきです：
 - 1. 主の回復は、キリストを、肉体と成ること、包括、強化におけるキリストの満ち満ちた務めにおける、わたしたちの中心、実際、命、すべてとして回復することです——コロサイ1:17後半, 18後半. 詩80:1, 15, 17-19. ヨハネ1:14. I コリント15:45後半. 啓2:4-5, 7, 17. 3:7-8, 12-13, 17-22. 4:5. 5:6. ヨハネ6:57. 14:21, 23. 21:15-17。
 - 2. 主の回復は、キリストのからだの一を回復することです——ヨハネ17:11, 21-23. エペソ4:3-4前半. 啓1:11。
 - 3. 主の回復は、キリストのからだのすべての肢体の機能を回復することです——エペソ4:15-16. ローマ15:16. I ペテロ2:5, 9. I コリント14:1, 4後半, 12, 26, 31, 39。
- D. ある人が主の回復から離れることが意味するのは、主の回復が何であるかを、その人が決して見ていなかったということです。もしわたしたちが主の回復のビジョンを見たことがないなら、わたしたちは実は主の回復の中にいないのです——使徒26:13-19. 参照、創13:14-18。
- E. 神の永遠のエコノミーは使徒たちを通して明らかにされましたが、信者たちが神の永遠のエコノミーに対する正しい理解を失ったので、それは主によって回復される必要があります：
 - 1. 「回復」と「エコノミー」という言葉は、二つの異なる観点から見られる一つの事を指しています。神にとって、それはエコノミーの事柄です。わたしたちにとって、それは回復の事柄です——I テモテ1:4. エペソ1:10. 3:9。
 - 2. 有力で確実な原則があります。それは、神の大多数の民が神の定められた御旨を完成することができないときはいつも、神が入って来て回復を持つということです。彼の回復は常に少数の者と共にあり、勝利者の残された者 [レムナント] と共にあるのであって、大多数の者と共にあるではありません——列王下22:8. エズラ1:3-11. ネヘミヤ2:11, 17. 啓3:21. 18:4。

II. わたしたちは、神の永遠のエコノミーの天的ビジョンの真理、神の永遠のエコノミーの的の真理、神の永遠のエコノミーの目標の真理の中を歩かなければなりません。このビジョンはわたしたちの中で日ごとに更新されて、わたしたちの生活と働きと活動のすべてを制御するビジョンとならなければなりません——箴29:18前半. 使徒26:16-19. I ヨハネ1:7. III ヨハネ3-4節：

- A. 神のエコノミーは「信仰の中に」あり (I テモテ1:3-5)、「信仰とは、望んでいる事柄を実体化

することであり、見ていない事柄を確認することです」(ヘブル11:1, 5-7, 26-27) :

1. すばらしいイエスは、「わたしたちの信仰の創始者、また完成者」です(ヘブル12:2)。信仰とは、「神はある」ことと(11:6)、わたしたちはないことを信じることです(創5:22-24)。
 2. こういうわけで、わたしたちは、主の回復がわたしたちに見えるものから、見えないものへと回復することであると言うことができます。このゆえに、わたしたちは見えるものによって歩くのではなく、信仰の霊を活用して信仰によって歩く者たちである必要があります——Ⅱコリント4:13, 16-18。
- B. 神の永遠のエコノミーは彼のご計画であって、ご自身を彼の選ばれ、あらかじめ定められ、贖われた民の中へと分与して、彼らの命、命の供給、すべてとならせ、キリストの有機的なからだを生み出し、構成し、建造することです——Ⅰテモテ1:3-6, 6:3-4, Ⅱコリント11:2-3, テトス1:9, コロサイ2:19。
- C. 神の永遠のエコノミーは、人を神格においてではなく命と性質において神と同じにし、ご自身を人と一にし、人をご自身と一にして、彼の表現において拡大し拡張し、彼の神聖な属性のすべてが人性の美德において表現されることです——ヨハネ1:12-13, 3:15-16, Ⅱペテロ1:4, ローマ8:16, Ⅰコリント6:17, ローマ12:1-2, Ⅱコリント4:16-18, ピリピ3:21, Ⅰヨハネ3:2。
- D. 神の永遠のエコノミーの的、すなわち、神の永遠のエコノミーの戦略的で中心的な点は、わたしたちの霊、すなわちわたしたちのミングリングされた霊の中のその霊である、内住する主観的なキリストです——Ⅱコリント3:17, Ⅱテモテ4:22, ローマ8:16, Ⅰコリント6:17 :
1. わたしたちは、わたしたちの人の霊の中のすべてを含む神聖な霊に絞り、焦点を定めることさえして、神聖なエコノミーの的を見逃すことがないようにしなければなりません——Ⅰテモテ1:6, マラキ2:15-16, ローマ1:9, 8:4, 6, ガラテヤ5:25, ピリピ3:3, Ⅱコリント2:13。
 2. 神の当初の意図の「青写真」の中で、人は全宇宙の中心であり、人の中心は人の霊です——創2:7, 箴20:27 :
 - a. 天は地のためであり、地は人のためであり、人が神によって霊を持つ者に創造されたのは、人が神と接触し、神を受け入れ、神を内容とし、神を礼拝し、神を生き、神のために神の定められた御旨を成就し、神を表現し、神と一になるためです——ゼカリヤ12:1, ヨハネ4:24。
 - b. 神がその霊でないなら、またわたしたちが神と接触し神と一になるための霊を持っていないなら、全宇宙は空虚であり、わたしたちは無です——伝1:2, 3:11, ヨブ32:8, 参照、ローマ9:21, 23, Ⅱコリント4:7。
 3. わたしたちが、わたしたちの霊の中で生き、わたしたちの霊を活用するとき、命を与える霊であるキリストは、わたしたちのすべてとなることができます。わたしたちの魂の中で生きることは、反キリストの原則の中で生きることです——ゼカリヤ4:6, 12:1, Ⅰコリント15:45後半, 6:17, Ⅰヨハネ2:18-19。
 4. 主の回復は、わたしたちの霊の中の一を回復することです。わたしたちの霊の中にいることは、単一さと一の場所であるエルサレムにいますが、わたしたちの思いの中にいることは、混乱と分裂の場所であるバビロンにいます——ヨハネ4:24, エペソ2:22, ローマ1:9, Ⅱテモテ1:6-7。
 5. わたしたちの霊は、一人の新しい人のために人種(race)を飲み尽くす恵み(grace)の「国」であり、わたしたちの思いは口論の「国」です。わたしたちの霊の中にいるその霊である主を享受することは、わたしたちと共にある恵みを持つことです。この恵みが失われるとき、召会

の墮落があります——Ⅱテモテ4:22. ガラテヤ6:18. 5:15. コロサイ3:10-11。

E. 神の永遠のエコノミーの目標は、キリストの有機的なからだの実際であって、新エルサレムにおいて究極的に完成します——エペソ1:22-23. 啓21:2-3, 9-10 :

1. 地方召会がなければ、キリストのからだの実際的な表現はなく、キリストのからだの実際はあり得ません——啓1:10-13. 2:7。
2. 神の永遠のエコノミーは、キリストのからだを得ることです。これ以外のどのような働きも、神の永遠のエコノミーの中心路線にはありません——エペソ4:1-6, 11-16。
3. わたしたちは使徒パウロの足跡に従って、キリストのからだ全体のブレンディングの生活の中へと、すべての聖徒をもたらさなければなりません——Ⅰコリント12:24. ローマ16:1-20。
4. この時代における主の回復のために、わたしたちは主と協力して、今日のエルサレム（召会生活）における今日のシオンとして勝利者となり、キリストのからだを建造して、新エルサレムを究極的に完成しなければなりません——啓3:21-22. 14:1-5. 士5:15-16, 31。

F. 使徒たちの教えである神の永遠のエコノミーの唯一の健康な教えと異なる教えは、わたしたちを分離して、わたしたちの命またすべてである主イエス・キリストご自身の尊いパーソンを真に評価し、愛し、享受することをさせないようにします——Ⅰテモテ1:3-4. 使徒2:42. Ⅱコリント11:2-3。

G. 今日、わたしたちが一つ思いであることができるのは、一つのビジョン、すなわち、神の永遠のエコノミーのビジョンだけを持っているからです——使徒1:14. Ⅰコリント1:9-10. エレミヤ32:39。

H. 主の回復の中にいるわたしたちは、神の永遠のエコノミーの明確なビジョンを持ち、次にこのビジョンによって支配され、制御され、方向づけられなければなりません。なぜなら、わたしたちがここにいるのは、神の回復の中で神の永遠のエコノミーを遂行するためであるからです——使徒26:18-19. 箴29:18前半。

Ⅲ. 神の永遠のエコノミーは（Ⅰテモテ1:3-4. Ⅰコリント9:17. 使徒26:19, 22）、神が人を創造することにおける、また神が彼の選びの民を対処することにおける、神の定められた御旨に関する大いなる質問に対する大いなる答えです（創1:26. ヨブ10:13. 参照、エペソ3:9）：

A. 神の心の中に隠されていた奥義は、神の永遠のエコノミーでした（エペソ1:10. 3:9. Ⅰテモテ1:4）。神の永遠のエコノミーとは、神の永遠の意図と神の心の願いであって、それはご自身を神聖な三一において、御父として、御子の中で、その霊によって、彼の選ばれた人々の中へと分与して、彼らの命また性質とならせることです。それは、彼らが神と同じになって彼の複製となり（ローマ8:29. Ⅰヨハネ3:2）、また有機体、新しい人としてのキリストのからだとなり（エペソ2:15-16）、また神の豊満、神の表現となって（1:22-23. 3:19）、新エルサレムにおいて究極的に完成するためです（啓21:2—22:5）。

B. 神の意図は、ヨブを裁いたり、罰したりすることではなく、彼を取り壊し、それからご自身をもって彼を再建して、ヨブを神の新創造における新しい人とならせることでした。ヨブの苦難は神の裁きではなく、神のはぎ取りと消耗させることでした。それは、神がヨブを獲得し、ヨブが神をさらに多く獲得することができるためでした——Ⅱコリント5:17. ガラテヤ6:15. ピリピ3:8, 12-14。

C. 神が人と成ったのは、人が神格においてではなく命と性質において神となるためであり、キリストのからだを生み出し、建造して、新エルサレムを究極的に完成するためです。これは全聖書の

本質、すなわち、聖書という「箱」の中の「ダイヤモンド」であり、神の永遠のエコノミーです——創1:26. ヨハネ12:24. ローマ8:29。

- D. 神は肉体と成ることを通して人と成り、人の人性にあずかりました。人は造り変えを通して神格においてではなく命と性質において神となり、神の神性にあずかります——ヨハネ1:14. IIコリント3:18. コロサイ3:4. IIペテロ1:4. ピリピ2:5. ローマ8:29. ヘブル2:10. エペソ1:5. ローマ8:19. Iヨハネ3:2. ヨハネ1:12-13。
- E. この神聖で人に属するロマンスは、全聖書の主題、神の永遠のエコノミーの内容、全宇宙の秘密です——雅1:1. 6:13. 参照、ハバクク1:1. 2:4. ローマ1:17:
1. キリストは神聖でありまた人に属し、彼を愛する造り変えられた者は人に属した神聖でもあります。両者は命と性質において同じであり、互いに完全に符合しています。
 2. 三一の神は、究極的に完成されて夫となり、三部分から成る人は、造り変えられて花嫁となり、両者は一組の夫婦、団体の大いなる神・人となります——啓21:2, 9. 22:17前半。
 3. 主の回復における働きは、彼の花嫁を用意する真の働きです——Iコリント3:9, 12. 15:10, 58. 16:10. IIコリント3:2-3, 6, 8-9. 4:16-18. 5:18-20. 11:2-3。
- F. 神と人は一つの実体となり、その一つの実体は神性と人性のミングリングであり、新エルサレムにおいて究極的に完成します。これが全聖書の結論です——啓21:3, 22, 2, 9. 参照、レビ2:4-5. 詩92:10。

メッセージ 2

主イエスを愛することを回復することは、
神のエコノミーを完成するためである

聖書：啓2:4-5. エペソ6:24. 詩110:3. 22:3

- I. 神のエコノミーは、信仰の領域と要素の中にあり、信仰は愛を通して働きます（ガラテヤ5:6）。召会の墮落は、主に対する初めの愛からわたしたちが離れることに始まります。愛以外の何ものも、わたしたちを主との正常な関係に保つことはできません（啓2:4-7）：
- A. 初めの愛をもって主を愛すること、すなわちすべての事で彼を第一位とすることは、悔い改めて初めのわざを行なうことです。初めのわざとは、初めの愛から出て来るわざです——啓2:5. I テサロニケ1:3. II コリント4:5。
 - B. 召会生活の内容は、キリストに対する享受にかかっています。わたしたちが彼を享受すればするほど、その内容はますます豊かになります。しかし、キリストを享受することは、わたしたちが初めの愛をもって彼を愛することを必要とします。
 - C. もしわたしたちが主に対する初めの愛を離れ、初めのわざを行なわないなら、キリストに対する享受を失い、イエスの証しを失います。その結果、燭台はわたしたちから除き去られます——啓2:1, 4-7。
 - D. この三つの事柄（主を愛すること、主を享受すること、主の証しとなること）は並行します。
- II. 「このように書かれているとおりです、『目が見たこともなく、耳が聞いたこともなく、人の心に思い浮かんだことのないものを、神はご自身を愛する者たちのために備えてくださった』。しかし、神はわたしたちに、その霊を通してそれらを啓示されました。その霊はすべての事柄、神の深みさえも探られるからです」——I コリント2:9-10：
- A. 神がわたしたちのために定め、備えられた深く隠された事柄を認識し、それにあずかるために、わたしたちは彼を信じるだけでなく、彼を愛することが必要です。彼を愛することが、不可欠の条件です。
 - B. 「神の深い事柄」、「神の深み」とは、わたしたちの永遠の分け前としての、多くの面におけるキリストです。これは神によってあらかじめ定められ、備えられ、無代価で与えられたものです。
 - C. 神は愛です。わたしたちが愛するのは、神がまずわたしたちを愛してくださったからです。わたしたちの内側の神の愛は、神に対するわたしたちの愛となります。わたしたちはこの愛をもって神を愛します——I ヨハネ4:9-10。
 - D. わたしたちが神を愛することは、わたしたちを神に祝福された人にします。そしてわたしたちの理解を超えて、神がわたしたちのために定め、備えられた神聖な祝福にあずからせます。わたしたちが主を愛さないことは、わたしたちをのろわれた者、のろいのために取っておかれた者にします——I コリント2:9. 16:22。
- III. 初めの愛、最上の愛をもって主を愛することは、すべての事で主を首位、第一位とし、彼の愛に押し迫られ、彼をわたしたちの生活の中であらゆるものとし、あらゆるものとして受けることです——啓2:4. コロサイ1:18後半. II コリント5:14-15. マルコ12:30. 詩73:25-26. 80:17-19：
- A. あらゆる人の主に対する愛の起点は、彼のパースンのビジョンです。主に対する初めの愛を離れることは、歴代、召会の失敗の根源また主要な原因です。ただ愛だけが、わたしたちを主との正常な関係の中に保つことができます——ピリピ3:8. マタイ26:6-13. エペソ3:16-19. 6:24. 啓

2:4-5. 参照、3:20 :

1. 雅歌で、わたしたちの上にある主の旗印は愛です。これは、愛がわたしたちのスローガンであり、わたしたちが行なうあらゆることが、主に対するわたしたちの愛に基づいていることを意味します。雅歌での追い求める者はまた、「愛に病んで」います。これが意味するのは、疲れ果てるほどにまで、愛としての主の中で彼女が喜ぶということです——雅2:4-5。
 2. キリストにある神の愛は、わたしたちの上に広がる旗印であり、それは神に愛されるわたしたちが、常に勝ち得て余りがあることを展覧し、展示します——ローマ8:31-39。
 3. わたしたちがあらゆることに打ち勝つ愛を持つのは、彼の愛の中で生きるときです。
- B. 初めの愛をもって主を愛すること、すべての事で彼を第一位とすることは、主との個人的で、愛情に満ちた、ひそかで、霊的な関係を持つことです——雅1:1-4。
- C. 初めの愛をもって主を愛すること、すべての事で彼を第一位とすることは、日々朝ごとの復興の生活をして、夜明けの胎から出る露のようなキリストの若者となることによって、彼を満足させ（詩110:3）、教えを受けた者の舌を持って、疲れた者を言葉をもって、いかに支えるかを知り（イザヤ50:4-5）、神と交わり、神の福音の奉仕のために、彼のみこころと喜びを尋ね求めることです（マルコ1:35）。
- D. 初めの愛をもって主を愛すること、すべての事で彼を第一位とすることは、日々献身の生活をして、今日のナジル人となり、完全に神へと分離され神で浸透されて、神を彼の神聖な三一の中で神の子供たちの中へと分与することによって、彼らを祝福することです——詩110:3. 民6:1-9, 22-27。
- E. 初めの愛をもって主を愛すること、すべての事で彼を第一位とすることは、祈りの生活をするということです——サムエル上12:23. マタイ6:6. 14:22-23. ダニエル6:10. 2:17-18. I テモテ2:1. II テモテ1:3. I テサロニケ5:17。
- F. 初めの愛をもって主を愛すること、すべての事で彼を第一位とすることは、神の言葉を愛し、尊び、思い巡らす（口ずさむ）ことです——詩119:11, 14-15, 23, 48, 72, 78, 97, 99, 111, 113, 119, 127, 140, 147-148, 159, 162-163, 165, 167。
- G. 初めの愛をもって主を愛すること、すべての事で彼を第一位とすることは、主の直接の、顔と顔を合わせた臨在によって統治されることです——出33:11, 14. 13:21-22. II コリント2:10。
- H. 初めの愛をもって主を愛すること、すべての事で彼を第一位とすることは、召会を愛するキリストの中で、召会を愛することです——エペソ5:25. II コリント12:15. I コリント16:24。
- I. 初めの愛をもって主を愛すること、すべての事で彼を第一位とすることは、召会を建造しわたしたちをキリストに婚約させる務めを愛することです——II コリント8:5. 11:2-3. I ヨハネ1:3. エペソ4:11-12。
- J. 初めの愛をもって主を愛すること、すべての事で彼を第一位とすることは、霊によって生き歩き、霊によって仕え、その霊を供給することです——ガラテヤ5:25. ピリピ3:3. II コリント3:6. ゼカリヤ4:6. 士9:9. 参照、サムエル上2:30後半。
- K. 初めの愛をもって主を愛すること、すべての事で彼を第一位とすることは、彼を生ける水の源泉とすることです。神のエコノミーにおける意図は、生ける水の源泉、源となって、ご自身を彼の選ばれた民の中へと分与して彼らの満足また享受となり、召会、神の配偶者を生み出し、それが神の拡張、神の拡大となり、神の豊満となって彼を表現することです——エレミヤ2:13. ヨハネ4:14後半。

- L. 初めの愛をもって主を愛すること、すべての事で彼を第一位とすることは、命の木としての彼を食べることです。命の木としてのキリストを食べること、すなわち、わたしたちの命の供給としてのキリストを享受することは、召会生活における主要な事柄であるべきです——啓2:7。
- M. 初めの愛をもって主を愛すること、すべての事で彼を第一位とすることは、絶えず彼に来て彼と接触し、彼を取り、彼を受け、彼を味わい、彼を享受することです——イザヤ57:20、フットノート1。
- N. 初めの愛をもって主を愛すること、すべての事で彼を第一位とすることは、彼をわたしたちの中心性（わたしたちをつなぐ中心）、またわたしたちの普遍性（わたしたちのすべて）とすることです。わたしたちは彼を、わたしたちの個人的な宇宙の中心、内容、円周とする必要があります——コロサイ1:17後半、18後半。
- O. 初めの愛をもって主を愛すること、すべての事で彼を第一位とすることは、すべての事で彼に喜ばれようと切望し、懸命に努めることです——Ⅱコリント5:9。コロサイ1:10。へブル11:5-6。
- P. 初めの愛をもって主を愛すること、すべての事で彼を第一位とすることは、畏るべき水晶のような澄み渡った空と、その上に神のサファイアの御座を持つことです。これが意味するのは、わたしたちと主との間に妨げるものが何もなく、わたしたちが彼の支配する臨在の天的な雰囲気、状態、状況に満たされ、彼にわたしたちの内側で支配し統治していただくということです——エゼキエル1:22, 26。
- Q. 初めの愛をもって主を愛すること、すべての事で彼を第一位とすることは、かしらとしての彼に結び付き、親密に彼に結び付けられ、わたしたちの生活におけるあらゆるものの支配者また決断者として彼に御座に着いていただくことです——コロサイ2:19。
- R. 初めの愛をもって主を愛すること、すべての事で彼を第一位とすることは、わたしたちのクリスチャン生活と働きのあらゆる詳細において、エホバの助言を求めることです——ヨシュア9:14。ピリピ4:6-7。
- S. 初めの愛をもって主を愛すること、すべての事で彼を第一位とすることは、わたしたちであること、またわたしたちが行なうことすべてにおいて、命の流れ、すなわちわたしたちの内側の主イエスの流れを首位とすることです。その時、彼はわたしたちの内側で輝く方、贖う方、王として支配する方、流れる方、供給する方です——エゼキエル47:1。啓22:1-2。
- T. 初めの愛をもって主を愛すること、すべての事で彼を第一位とすることは、わたしたちのミングリングされた霊によって管理され、支配され、指示され、導かれ、動かされることであり、また彼のとりことなることによって、また「主よ、わたしをあなたのとりことしてください。決してわたしに勝たせないでください。絶えずわたしを打ち破ってください」と祈ることによって、わたしたちの霊の中の安息を顧みることです——Ⅱコリント2:13-14。
- U. 初めの愛をもって主を愛すること、すべての事で彼を第一位とすることは、わたしたちの賛美をもって彼に御座に着いていただくことです。賛美は神の子供たちによってなされる最高の働きです——詩22:3。119:164。34:1。

神の永遠のエコノミーの完成のために
クリスチャンのレースを走り、賞を得る

聖書：ヘブル12:1-2. Iコリント9:24. ピリピ3:13-14.

IIテモテ4:7-8. ローマ12:3. 雅1:4. エレミヤ31:3

I. 神の永遠のエコノミーとは神の家庭の行政であり、それは彼の選ばれ贖われた人々の中へとご自身をキリストの中で分与し、神が家を得てご自身を表現することです。この家は召会、キリストのからだです。神のエコノミーは信仰の領域の中で開始し、発展します——Iテモテ1:3-6. 3:15:

A. クリスチャン生活は、信仰の生活、信じる生活です（ガラテヤ3:2, 14）。わたしたちは見ているものにしがたって生きるのではありません（IIコリント4:16-18. Iペテロ1:8. ヘブル11:27）。わたしたちは信じているものにしがたって生きるのです。わたしたちの歩みは信仰によってであって、見えるものによってではありません（IIコリント5:7）。

B. 信じることは、わたしたちの信仰の霊（IIコリント4:13）を活用して、神聖な事実を実体化することです（ヘブル11:1）。いったんわたしたちが神の言葉にアーメンと言うことによって信じるなら、神聖な事実を実体化し、それらを得ます。アーメンが意味するのは、ある事が成就されるのを願うことではなく、それが確かに成就されると宣言することであり、それについて何の疑いもないことです。わたしたちは信じる時、主が行なうとすでに約束したことを受け入れます（Iコリント14:15. IIコリント1:20. ネヘミヤ8:1-8. 啓3:14）。

II. 「こういうわけで、こんなにも大勢の証し人である雲に囲まれているのですから、わたしたちも、あらゆる重荷と、いとも容易にまといくつか罪をかなぐり捨てて、前に置かれているレースを、忍耐をもって走ろうではありませんか」——ヘブル12:1:

A. 雲は、民を導いて主について行かせるためです（民9:15-22）。そして主は、雲の中で民と共におられます（出13:21-22）。ギリシャ語の「証し人」は、殉教者という意味を暗示します（使徒1:8）:

1. 信仰の民がいれば、わたしたちは主の臨在と主の導きを持つことができます。信仰のすべての民、召会の民は、雲です。主の臨在を尋ね求める最上の道は、召会に来ることです。
2. だれでも主の導きを尋ね求めようとするなら、雲、すなわち召会について行かなければなりません。主は雲の中におられます。その意味は、主が信仰の民と共におられるということです。
3. わたしたちは信仰の民であるので、わたしたちは今日の雲です。そして人々は、わたしたちについて行くことによって主について行くことができます。主を尋ね求める人たちは、わたしたちにおいて主の臨在を見いだすことができます——参照、Iコリント14:24-25. 詩36:8-9. 16:11。

B. クリスチャンの生涯はレースです。すべての救われたクリスチャンは、レースを走って、賞を勝ち取らなければなりません（Iコリント9:24）。この賞は、一般的な意味における救いではなく（エペソ2:8. Iコリント3:15）、特別な意味における褒賞です（ヘブル10:35. Iコリント3:14）。使徒パウロはレースを走って、賞を勝ち取りました（9:26-27. ピリピ3:13-14. IIテモテ4:7-8）:

1. 重荷とは、重いもの、重圧、妨げです。レースの走者は、あらゆる不必要な重いもの、重荷となる重圧を脱ぎ捨てます。それは、彼らが何の妨げも受けずに、レースに勝つためです。
2. ヘブル第12章1節の文脈における唯一のまといくつか罪とは、故意の罪でした。それは、聖徒たちと共に集会することをやめることであり、神のエコノミーにおける新契約の道を捨てることであり、ユダヤ教に戻ることでした（ヘブル10:26）。重荷となる重いものと、まといくつか罪は、

いずれもヘブル人信者たちを挫折させ、新契約の道においてイエスに従って天のレースを走
るのを妨げました。

C. わたしたちは忍耐をもって走り、主がわたしたちの心を神の愛の中へと、またキリストの忍耐の
中へと、導いてくださるよう求める必要があります——Ⅱテサロニケ3:5:

1. この愛は、神へのわたしたちの愛であり、それは、わたしたちの心の中に注がれている（ロー
マ5:5）神の愛から生じます（Ⅰヨハネ4:19）。
2. この忍耐は、わたしたちが享受し経験したキリストの忍耐をもって耐え忍ぶことです——参照、
啓1:9。

Ⅲ. 「わたしたちの信仰の創始者、また完成者であるイエスを、ひたすら見つめていなさい。彼はご自
分の前に置かれた喜びのために、恥をもちとわなないで十字架を耐え忍び、そして神の御座の右に座
しておられるのです」——ヘブル12:2:

A. わたしたちは、他のすべてのものから向きを変え、集中した注意力をもって、イエスをひたすら
見つめることによって、クリスチャン生活を生き、クリスチャンのレースを走ることができます:

1. すばらしいイエス、すなわち、天で御座に着かれ、栄光と尊貴を冠として与えられている方は
（2:9）、宇宙において最大の魅力です。
2. 彼は巨大な磁石のようであり、彼を追い求めるすべての人を彼へと引き寄せます——雅1:4. ホ
セア11:4. エレミヤ31:3。
3. 彼の魅了する麗しさ（愛らしさ、楽しさ、喜ばしさ）に引き付けられることによって、わたし
たちは彼以外のすべてのものから目をそらします——詩27:4。
4. このような魅了する対象がいなければ、どうしてわたしたちは、地上の多くの惑わすものから
目をそらすことができるのでしょうか？

B. イエスは、信仰の創始者、すなわち、信仰の創設者、開始者、源、要因です。わたしたちの天然
の人の中には、信じる能力はありません。しかし、わたしたちがイエスをひたすら見つめるとき、
彼は命を与える霊として（Ⅰコリント15:45後半）、彼ご自身を、彼の信じる要素をわたしたち
に注入します。

C. すると、自然に、一種の信じるということがわたしたちの中に起こり、わたしたちは信仰を持ち、
彼を信じます。この信仰は、わたしたち自身からのものではなく、ご自身を信じる要素としてわ
たしたちの中へと分け与えて、わたしたちに代わって信じる主からのものです。

D. 信仰とは、キリストご自身が、とても主観的な方法でわたしたちに代わって信じることです。彼
はご自身をわたしたちに注入し、ご自身をわたしたちの中へと造り込み、ついには彼というパー
スンが、わたしたちの中で信じる要素となります。

E. こういうわけで、わたしたちが信じるのではなく、彼がわたしたちの中で信じるのです。このよ
うにして、彼はわたしたちを、信じる者とします（参照、使徒6:5. 11:22-24前半）。表面上、
わたしたちが信じていますが、実は、彼が信じているのです。これが真の信仰です。

F. 信仰とは、実体化する能力、第六の感覚、見ていない事柄や望んでいる事柄を実体化し、それに
実体を与える感覚です——ヘブル11:1:

1. 実体化することは、わたしたちがある実体を実際化することができるようにする能力です。
2. わたしたちの五感の機能は、外側の世界の事柄を実体化し、客観的なものすべてをわたしたち

の中へと伝えて、わたしたちの主観的な経験とならせることです。

3. 目は見るためであり、耳は聞くためであり、鼻はかぐためであるように、信仰、すなわち、わたしたちの信仰の霊は、それによってわたしたちが、見えない霊的な世界にあるすべてを実体化して、わたしたちの中へともたらず器官です——Ⅱコリント4:13。
4. 究極的に完成された霊という神聖で奥義的な領域の中で、わたしたちはわたしたちの信仰の霊を活用して、霊的な感覚を持ち、主を見て（エペソ1:18. マタイ5:8. ヨブ42:5）、主に聞き（ガラテヤ3:2. 啓2:7前半）、主に触れ（マタイ9:21. 14:36. ヨハネ4:24）、主を味わい（詩34:8. Iペテロ2:2-3）、主をかぎ、主で浸透されることができ、ついにはわたしたちは「キリストの香ばしいかおり」となり（Ⅱコリント2:15）、愛の中でのわたしたちのクリスチャンの歩みは神へのかぐわしい香りとなります（エペソ5:2）。さらにまた、彼を愛し追い求める者として、わたしたちは最終的に命の中で円熟して、ついには霊的な直覚と、高く鋭い識別力のある嗅覚とを持ち、何が神からのものであり、何が神からのものでないかを識別するようになります（雅7:4後半. ピリピ1:9）。

G. 信仰は、望んでいる事柄を実体化することであり、見ていない事柄を把握し、確認することです。ですから、信仰は、見えない事柄の証拠、証明です——ヘブル11:1：

1. 「わたしたちは望みの中で救われたからです。しかし、見える望みは望みではありません。見ているものを、だれが望むでしょうか？ わたしたちが見ていないものを望むとしたら、忍耐してそれを熱心に待ち望むのです」——ローマ8:24-25。
2. わたしたちの生活は望みの生活であるべきであり、それは信仰を伴っており、また信仰と共にあります（Iペテロ1:21. Iコリント13:13）。わたしたちは、「わたしたちの父アブラハム…の…信仰の足跡にしたがって歩く」（ローマ4:12）者たちとなるべきです。彼は、「望み得ないのに、なおも望んで信じました」（18節）。
3. わたしたちは、わたしたちの信仰の霊を活用して、見えるものによってではなく、信仰によって歩く必要があります（Ⅱコリント4:13. 5:7）。「わたしたちは見えるものではなく、見えないものに」目をとめ、見つめます。「なぜなら、見えるものは一時的ですが、見えないものは永遠であるからです」（4:18）。
4. クリスチャン生活は、見えない事柄の生活です。召会の墮落は、見えない事柄から見える事柄への墮落です——ヘブル11:27. Iペテロ1:8. ガラテヤ6:10。
5. 主の回復とは、ご自身の召会を、見える事柄から見えない事柄へと回復することです。

H. イエスは、わたしたちの信仰の完成者、成就者、完結者です——ヘブル12:2前半：

1. わたしたちが絶えず彼をひたすら見つめるとき、わたしたちが天のレースを走るために必要とする信仰を、彼は成就し、完結してくださいます——1節。
2. わたしたちはみな、質において同じ信仰を持っています。しかし、わたしたちが持つ信仰の量は、どれだけわたしたちが生ける神と接触して、彼がわたしたちの中で増し加わったかにかかっています——ローマ12:3：
 - a. 前進する段階にある信仰は、わたしたちの中で信仰となっている三一の神と、わたしたちが接触することからやって来ます——Iテサロニケ5:17。
 - b. そのような信仰を受ける道は、主を呼び求め、主に祈り、主の言葉を祈り読みすることによ

って、信仰の源、すなわち、主、手順を経て究極的に完成された神と接触することです——
ヘブル4:16. ローマ10:12. II テモテ2:22. エペソ6:17-18. ヘブル4:2。

c. わたしたちが彼と接触するとき、彼はわたしたちの内側であふれ流れており、わたしたちの間には相互の信仰があります。わたしたちは、互いの信仰によって励まされます——ローマ1:12. ピレモン6節。

3. わたしたちの再生された霊、わたしたちの信仰の霊は、サタンが組織化し強奪した世に打ち勝つ勝利です—— I ヨハネ5:4. ヨハネ3:6. II コリント4:13. I ヨハネ5:18。

4. 信仰の、抑えつけることのできない無限の偉大な力によって、多くの人は動機づけられて、主のために苦難を受け、命をかけ、勝利を得た遣わされた者また殉教者となり、信仰の中にある神の永遠のエコノミーを遂行します——ルカ18:8. ピリピ2:30. ローマ16:3-4. 使徒20:24. I テモテ1:4. ヘブル12:3. 参照、士8:4。

I. ヘブル第12章2節によれば、イエスはご自分の前に置かれた喜びのために、「恥をもいとわないで十字架を耐え忍び、そして神の御座の右に座しておられるのです」：

1. 主イエスは、彼の死を通して復活の中で彼の栄光が現されることを知っており（ルカ24:25-26）、また彼の神聖な命が解き放たれて、多くの兄弟たちが生み出されて彼の表現となることを知っていました（ヨハネ12:23-24. ローマ8:29）。彼はご自分の前に置かれた喜びのために（ヨハネ16:20-22）、恥をもいとわないで、サタンが強奪しているユダヤ人の指導者たちと異邦人へと自ら進んで引き渡され、彼らによって罪に定められ、死へと至りました。

2. ですから、神は彼を天へと高く引き上げ、彼を神の右に座らせ（マルコ16:19. 使徒2:33-35）、あらゆる名にまさる名を彼に与え（ピリピ2:9-10）、彼を主またキリストとし（使徒2:36）、栄光と尊貴を冠として彼に与えました（ヘブル2:9）

3. もしわたしたちが、そのようなすばらしい、すべてを含む方である彼をひたすら見つめるなら、彼はご自身を天、命、力としてわたしたちの中へと供給し、彼であるすべてをわたしたちに伝達し注入します。それによってわたしたちは天のレースを走って、地上で天の生活をすることができます。このようにして、彼はわたしたちに、生涯にわたる信仰の道のりを走り通させ、わたしたちを栄光の中へと導き、もたらします——II コリント3:16, 18. I ペテロ5:4. II テモテ4:8。

メッセージ 4

神聖なエコノミーのための神聖な分与は、
わたしたちを美しくするものとしての性情の聖別の過程であり、
キリストのために聖い栄光の花嫁とならせる

聖書：ローマ6:19, 22. エペソ5:25-27. 啓19:7-9.

I テサロニケ5:23. 雅8:13-14

I. 神のみこころは、わたしたちの聖別です。聖別されるとは、聖くされること、すなわち、神へと分離され、聖なる方としての神で浸透されることです。神は、すべての俗なものとは異なり、区別されている方です——I テサロニケ4:3前半. I ペテロ1:15-16. エペソ1:4-5. 5:25-27。

II. 聖書には聖別の三つの面があります：

A. 神の選ばれた民を捜し求めることにおけるその霊の聖別があり、これは彼らが悔い改めて信じる前のものです——I ペテロ1:2. 参照、ルカ15:8-10。

B. 地位上の聖別があり、これはキリストの血による、信者たちが信じた時のものです——ヘブル13:12. 9:13-14. 10:29. 参照、ルカ15:4-7。

C. その霊の性情の聖別があり、これは信者たちのクリスチャン生活の全行程におけるものです——I テサロニケ5:23-24. ローマ15:16後半. 6:19, 22. 参照、ルカ15:11-32. ローマ5:10. 啓22:14. II ペテロ1:4。

III. エペソ第5章25節から27節は、三つの段階においてキリストをわたしたちに提示する、神の全体的な救い全体を啓示しています：

A. 過去、贖い主としてのキリストは、召会のためにご自身を捨てられました。それはわたしたちの法理的な贖いのためです——「夫たちよ、キリストが召会を愛して、彼女のためにご自身を捨てられたように、あなたがたの妻を愛しなさい」——エペソ5:25。

B. 現在、命を与える霊としてのキリストは、彼の要素を召会に浸透させることによって召会を性情において聖別し、召会が彼の配偶者となるようにしています。これは、花嫁を美しくし花嫁を用意するための有機的な救いです——「それはキリストが召会を聖化し、言葉の中の水の洗いによって召会を清めるためであり」——5:26。

C. 将来、花婿としてのキリストは、召会を彼の配偶者としてご自身にささげ、満足を得ます——「それは、しみやしわや、そのようなものが何もなく、聖くて傷のない栄光の召会を、彼がご自身にささげるためです」——これはわたしたちの栄光化であり、花嫁をささげるためです——5:27。

D. 過去、キリストは召会のためにご自身を捨てられました。現在、彼は召会を聖化しつつあります。将来、彼は召会を彼の配偶者としてご自身にささげ、満足を得ます。ですから、彼が召会を愛することは、召会を聖化することであり、彼が召会を聖化することは、栄光の召会をご自身にささげるためです。

IV. 回復における主の主要な働きは、彼の花嫁を用意する真の働きです。エペソ第5章26節で語られている継続的な性情の聖別なしに、花嫁が用意される道はなく、それゆえに、啓示録第19章7節から9節が成就される道也没有。神聖なエコノミーのための神聖な分与は、性情の聖別の過程であり（I テサロニケ5:23-24）、それはわたしたちが美しくされて、キリストのために美しく、聖い、栄光の花嫁となるためです：

A. 命を与える霊としてのキリストは、言葉の中の水の洗いにしたがって召会を清めることによって、

召会を聖化します。神聖な観念によれば、ここの「水」は、流れる水によって予表される、神の流れる命を指しています（出17:6. I コリント10:4. ヨハネ7:37-39. 啓7:17. 21:6. 22:1, 17）。わたしたちは今そのような洗う過程の中にいます。それは、召会が聖くて傷のないものとなるためです。

- B. エペソ第5章26節の「洗い」のギリシャ語は、文字どおりには「洗盤」です。旧約で祭司たちは、洗盤を使って彼らの地上の汚れを洗い去りました（出30:18-21）。日ごとに、朝も夕も、わたしたちは聖書に来て、言葉の中の水の洗盤によって清められる必要があります。
- C. パウロは洗う過程を伴う言葉について語るとき、「レーマ」というギリシャ語を用いています（エペソ5:26）。ロゴスは聖書に記録されている客観的な神の言であり、レーマは特定の場合にわたしたちに語られる神の言葉です（マルコ14:72. ルカ1:35-38. 5:5. 24:1-8）。
- D. 命を与える霊として、キリストは語る霊です。彼が語ることは何であれ、わたしたちを洗う言葉です。これが指しているのは、恒常的な言葉であるロゴスではなく、即時的な言葉を意味するレーマ、すなわち、主が現在わたしたちに語る言葉です——マタイ4:4. ヨハネ6:63. 啓2:7. 22:17前半. 参照、イザヤ6:9-10. マタイ13:14-15. 使徒28:25-31。
- E. レーマは、わたしたちに何かを個人的に直接的に啓示します。それは、わたしたちが何を対処する必要があります、何から清められる必要があるのかを示しています（青銅の洗盤は鏡であり、映し、暴露することができました——出38:8）。わたしたち一人一人にとって重要な事は、このことです。すなわち、神は今日わたしに彼の言葉を語っているのでしょうか？
- F. わたしたちが常に尊んでいる一つの事は、主が今日もなお、わたしたちに個人的に直接、語っているということです。命における真の成長は、わたしたちが直接、神から言葉を受けることにかかっています。わたしたちの中での彼の語りかけだけに、真の霊的価値があります——ヘブル3:7-11, 15. 4:7. 詩95:7-8。
- G. わたしたちの祈りの中心点は、わたしたちが主の語りかけを切望することであるべきです。それがわたしたちに、彼の心の願いにしたがった彼の永遠のエコノミーの目標（すなわち、彼の配偶者としての花嫁を得ること）を成就することができるようにします——啓2:7. 参照、サムエル上3:1, 21. アモス3:7。
- H. とても実際の意味で、主の臨在は彼の語りかけと一つです。彼が語るときはいつも、わたしたちは自分の内側にある彼の臨在を認識します。キリストの語りかけは、まさに命を与える霊の臨在です。
- I. わたしたちの内側の命を与える霊としての内住するキリストの語りかけは、清める水であって、新しい要素をわたしたちの中へと入れ、わたしたちの性質と性情の中の古い要素に置き換わりませぬ。この新陳代謝的な清めは、命における真正な内側の変化を引き起こします。それは性情の聖別と造り変えの実際です。
- V. エペソ第5章27節が啓示しているのは、キリストの花嫁としての召会が最終的に、「しみやしわや、そのようなものが何もなく、聖くて傷のない」栄光の召会、神を表現する召会になるということです：
- A. 花嫁の美しさとは、召会の中へと造り込まれ、そして召会を通して表現されるそのキリストから生じます。わたしたちの唯一の美しさは、わたしたちの内側から輝き出るキリストです——イザヤ60:1, 5前半. II コリント3:15-18. 参照、出28:2。
- B. 花嫁が用意されることは、花嫁が「輝く清い細糸の亜麻布」の衣を着ることを意味します。その細糸の亜麻布の衣は、「聖徒たちの義」です（啓19:8）。この細糸の亜麻布は花嫁の美しさです。

- C. 花婿は婚姻の日に、彼の花嫁の能力よりも彼女の美しさをはるかに顧慮します。わたしたちの神である主イエスは、わたしたちの人性を通して表現される彼ご自身の美しさを第一に顧慮します。わたしたちは日々、キリストによって美しくされる必要があります。それは、わたしたちが用意されて、彼の愛らしい花嫁として彼にささげられることができるためです。
- D. わたしたちが時間を取って、祈り読みし、また主の言葉を思い巡らすことによって、主の言葉の中で主の美しさを見つめるときはいつでも（エペソ6:17-18. 詩119:15）、彼はわたしたちの美しさとなり、またわたしたちは彼によって美しくされて、彼の美の家となります。それは、彼も美しくされるためです（27:4. IIコリント3:18. イザヤ60:7後半, 9後半, 13後半, 19後半, 21後半）。
- E. エペソ第5章26節の言葉の中の水の洗いは、おもに、しみとしわを扱っています。しみは天然の命のものを指しており、しわは古さと関係があります。命の水だけが命の造り変えによって、そのような欠陥を新陳代謝的に洗い去ることができます。
- F. 聖くなるとは、キリストで浸透され、キリストによって造り変えられることです。傷がないとは、しみやしわがなく、わたしたちの古い人の天然の命のものが何もないことです——参照、雅4:7。
- G. また、召会に「そのようなもの」が何もないとは、召会に「このような、あるいはあのような欠陥」がないことを意味します。神は召会を、いかなる面についても召会に対して何も言うことができない点にまでもたらしめます——エペソ5:27。

VI. エペソ第5章26節から27節は、雅歌第8章13節から14節と符合しています。両方が啓示しているのは、わたしたちに対する主の語りかけによって、わたしたちが用意され、彼の再来に対する願いを持った彼の栄光の花嫁となるということです——「園の中に住む者よ、わたしの仲間たちは、あなたの声に耳を傾けています。わたしにそれを聞かせてください。わが愛する方よ、急いでください。香料の山々の上のもしかや、若い雄鹿のようになってください」：

- A. 雅歌において、キリストを愛し追い求める者は、彼女の仲間たちが彼の声に耳を傾けている時、彼の園である信者たちの中に住んでいる彼に、彼の声を聞かせてくださるよう求めています——雅8:13. 参照、4:13-16. 5:1. 6:2：
1. これが示しているのは、キリストを愛する者たちであるわたしたちが、わたしたちの愛する方である彼のために行なう働きにおいて、彼との交わりを維持し、常に耳を傾ける必要があるということです——ルカ10:38-42。
 2. わたしたちの生活は主の言葉にかかっており、わたしたちの働きは彼の命令にかかっています（啓2:7. サムエル上3:9-10. 参照、イザヤ50:4-5. 出21:6）。わたしたちは主の言葉なしに、わたしたちの王（イザヤ6:1, 5）、わたしたちの主（IIコリント5:14-15）、わたしたちのかしら（コロサイ2:19）、わたしたちの夫である（IIコリント11:2）キリストのいかなる啓示も、光も、個人的な知識も得ることはないでしょう。信者たちの生活は完全に主の語りかけにかかっています（エペソ5:26-27）。
- B. この詩的な書の結びの祈りとして、キリストを愛する者が祈っているのは、彼女の愛する方が彼の復活の力（もしかや若い雄鹿）の中で急いで戻って来て、彼の甘く美しい王国（香料の山々）を設立して下さり、その王国が全地を満たすようにということです——雅8:14. 啓11:15. ダニエル2:35：
1. そのような祈りは、花婿としてのキリストと花嫁としての彼を愛する者たちの間の、婚姻の愛における結合と交流を描写しています。それはキリストの愛する者であるヨハネの祈りが（聖書の結びの言葉として）、神聖な愛における、キリストと召会に関する神の永遠のエコノミー

を啓示しているようにです——啓22:20。

2. 「主イエスよ、来たりませ！」は、聖書における最後の祈りです（20節）。全聖書は、祈りとして表現された、主の到来に対する願いをもって結んでいます。
3. 「主が来られる時、信仰は事実に変換し、賛美が祈りに置き換わります。愛は影のない完全なものとなり、わたしたちは罪のない領域で彼に仕えます。それは何という日でしょう！ 主イエスよ、早く来たりませ！」（ウオッチマン・ニー全集、第23巻、第6区分）。

東京全時間訓練 2022年9月

集中講義 1

命の木としてのキリストを享受する道を取る

「命の木は、人に命を分け与えまた人を喜ばせ満足させるキリストを予表します」——「創世記ライフスタディ (1)」、第11編。

「1943年5月……わたしは深刻な結核に感染しました。……わたしは二年半のわたしの病の期間に、命の木を見ました。その二年半にわたしは、主の回復において、また主の働きにおいて、わたしたちが命に欠けていることを見ました。あらゆる種類の問題は、それが何であっても、命の不足の結果です。わたしはこのことを見た時、非常に後悔し、主の御前で多く告白し、徹底的な悔い改めを持ち、また主の御前で多くの対処を持ちました。……命の木についてのメッセージは南京において、多くの聖徒たちを救い、また多くの兄弟姉妹を解放しました。上海に在る召会における四年間の騒動のゆえに、聖徒たちは長年にわたって落胆し、意気消沈して、何もすることができませんでした。これらのメッセージは彼らの霊を解放し、彼らの心を照らしました。……主に感謝します。命の木についてのメッセージを通して、上海に在る召会はいやされました。……命の木についてのメッセージは、上海に在る召会の復興のために基礎を据えました」——ウイットネス・リー全集、1981年、第2巻（上）、「主の回復の歴史と啓示」、第8編。

「命の木を食べること、すなわち、キリストをわたしたちの命の供給として享受することは、召会生活の主要な事柄であるべきです」——啓2:7、フットノート6、第4段落。

「悪しき者どもの邪悪な状態は、彼らが主に来て主を食べ享受しないことです。……彼らは多くの事を行ないませんが、来て主と接触し、彼を取り、彼を受け、彼を味わい、彼を享受することをしません。神の目に、これほど邪悪なことはありません」——イザヤ57:20、フットノート1。

「神がわたしたちに彼を享受してもらいたいことと、神がわたしたちに彼のために何も行なってもらいたくないことを見ることは、クリスチャン生活が享受の事柄であることを見ることです。……もしわたしたちの観念が変えられて、これら二つの要点を見るなら、わたしたちが神を享受する生活をするのは容易でしょう」——「命の木と善悪知識の木のビジョン」、第5章。

「もしわたしたちが神を享受する道を取りたいなら、観念を変えなければなりません。……もしわたしたちが神を享受する実際の中へと入りたいなら、支配するビジョンを見なければなりません。……わたしが四十歳になってはじめて、主はわたしに彼を享受する道を啓示してくださいました。わたしは自分の二十年間の時間と労力の大部分が無駄であったことに失望しました。わたしの祈りの大部分は価値がなく、聖書や他の霊的書物を読むのに費やした時間も価値がありませんでした。この時わたしは、わたしたちの働きの道が間違っており、またわたしたちの霊的な追求の道も間違っていたことに気づきました。……間違った道を取ることから大きな損害を被ったので、わたしは他の人たちに同じ間違いを繰り返してもらいたくありません。わたしが望むのは、他の人たちが神を享受する道を取ることができることです。わたしは聖徒たちにもはやこれ以上、間違った道を取らないように懇願します。わたしたちは以前のわたしたちの追求の道を考慮すべきです。わたしたちは観念において徹底的な転換を持たなければなりません。わたしたちは支配するビジョンを持つ必要があります」——「命の木と善悪知識の木のビジョン」、第5章。

I. 生ける神の宮としての召会を建造するための神の考えと道は、わたしたちの考えと道よりも高いのです。わたしたちは自分の道と考えを捨て、エホバ・わたしたちの神に立ち返って、生ける神の宮としての召会の中で彼を享受する道を取る必要があります——創2:9. ヨハネ6:35, 57, 63. イザヤ55:6-13. 57:20. ヨハネ1:14. 2:19. 3:34. 17:17. エペソ5:26. IIコリント3:15-18. 6:16. ローマ8:28-29. 啓22:1-2:

A. わたしたちは神の子供たちとして、観念を変え、神の願いはご自身をわたしたちに与えて、わたしたちの享受とならせることであることを認識する必要があります——詩36:8-9. 16:11. 19:8. 27:6. 42:4-5. 48:2. 63:7. 66:1-2. 81:1. 89:15-18. 95:1-2. 100:1-2. 126:1-6. ネヘミヤ8:10. Iヨハネ1:3-4:

1. 実を結ぶことは、神を享受することです——ヨハネ15:7-11。
2. 祈ることは、神を享受することです——哀3:55-56. 詩歌210番。
3. 言葉を供給することは、神を享受することです——ヨハネ6:57, 63. 7:37-39. Iコリント15:10. IIコリント3:1-6, 18. 2:17. 13:3. エペソ3:2. Iペテロ4:10-11. エレミヤ15:16. エゼキエル3:1-4. イザヤ55:8-11。
4. 福音を宣べ伝えることは、神を享受することです——ヨハネ4:10, 13-14, 31-34。
5. 神の導きを受けることは、神を享受することです——出33:14。

- B. ローマ第11章が啓示しているのは、わたしたちがオリーブの木としてのキリストの枝々であって（17, 24節）、「オリーブの実」を結び、人を和らげる油（聖霊を表徴する）を生み出すということです。ヨハネ第15章が啓示しているのは、わたしたちがぶどうの木としてのキリストの枝々であって（5節）、「ぶどうの実」を結び、人を活気づけるぶどう酒（神聖な命を表徴する）を生み出すということです。そしてルカ第10章で、良きサマリア人は死にかけている人の傷に油とぶどう酒を注ぎました（33-34節）：
1. 油とぶどう酒は合わさると、人のいやしとなります。わたしたちは主を呼び求め、主の御言を祈り読みすることによって、主の中に住めば住むほど、ますます「オリーブの実」と「ぶどうの実」を結んで、油とぶどう酒を生み出して、内側で傷つき落ち込み失望している人の中へと注ぎます。
 2. オリーブの木からできた油は、神と人を尊ぶために用いられました（士9:8-9）。これが表徴するのは、霊によって歩く人は神を尊び（ガラテヤ5:16, 25）、その霊を供給する人は人を尊ぶということです（Ⅱコリント3:6, 8. ピリピ3:3）。
 3. ぶどうの木からできたぶどう酒は、神と人を喜ばせるために用いられました（士9:12-13）。これが表徴するのは、自分を犠牲にし人を活気づける命としてキリストを享受する人たちが、神を喜ばせるということと（マタイ9:17）、自分を犠牲にし人を活気づける命としてキリストを供給する人たちが、人を喜ばせるということです（Ⅱコリント3:6. ピリピ2:17. Ⅱテモテ4:6）。
- C. クリスマン生活をして勝利者となる秘訣は、わたしたちが命の木としての神を享受する道を取ることです。神には、わたしたちに彼のために何かを行なわせる意図はありません。彼の唯一の願いは、ご自身を食物としてわたしたちに与えて、わたしたちの享受とならせること——創2:9. 啓2:7. 詩27:4. 43:4. 42:5, 11。
- D. わたしたちがエホバの良きことを味わい、そして見るのは（詩34:8）、神の宮である神の家の中で、すなわち、キリストの中で（ヨハネ2:19-22）、召会の中で（Ⅰテモテ3:15. Ⅰコリント3:16-17. Ⅱコリント6:16）、わたしたちの霊の中で（エペソ2:22）、究極的には新エルサレムの中でです（啓21:22）。
- Ⅱ. わたしたちは、絶えず「下に根を張り、上に向かって実を結ぶ」者たちとなることによって（列王下19:30. 参照、ヨハネ1:16、ヘブル4:16. ローマ5:17, 21）、神の定められた道を取って、生ける神の宮としての召会を

建造する必要があります。これは、「あなたがたのために、わたしに与えられた神の恵みの執事職」です（エペソ3:2. 参照、マタイ6:6. IIコリント12:7-10. Iペテロ4:10-11）。

- Ⅲ. わたしたちすべての兄弟たちは、地上での最高の職業を、すなわち、神を注入されるという目的のために日ごとに時間を費やすことを実行する必要があります。それはわたしたちが神をもって輝き、他の人々の中へと神を照らし込むためです。この事は、神の定められた道を取って、召会を建造することの内在的な本質です。こういうわけで、神の定められた道を取ることは、わたしたちの生活と主に対する奉仕において、キリストを享受する道を取ることです。そうして、わたしたちは新エルサレムを生かし出し成し遂げることができます——「偉大な啓示！」

© 2022 *Living Stream Ministry*

生ける神の宮としての召会の中で、キリストを享受する道を取ることによって、
幕屋の召会生活から宮の召会生活へと、主と共に前進する

聖書：マタイ12:3-4, 42. ヨハネ14:21, 23.

ローマ8:28-29. 詩27:4. 36:8-9. 43:4. 84:4-5

- I. わたしたちの内側の主は、魂の荒野にある幕屋の召会生活から、わたしたちの霊にある良き地の実際であるキリスト（すべてを含む霊）を伴う宮の召会生活へと前進することを切望しています——ヘブル6:1前半. ヨシュア3:14-17. 申8:8. エペソ2:21-22. コロサイ1:12. 2:6-7。
- II. 幕屋と宮は、召会の二つの面を予表しています：
- A. 列王紀上第8章1節から11節は、幕屋と宮が合併されたことを見せています。幕屋は可動式の前身であって荒野の行程を行きましたが、宮は予表における神の建造の究極的完成でした。
- B. 幕屋の拡大としての宮は、召会が強化され安定することを表徴しており、宮の中の器具が更新され拡大したことは、聖徒たちのキリストの経験が更新され拡大することを表徴しています。宮の寸法と宮の中の至聖所の寸法は、幕屋のそれらの寸法の二倍でした。さらに、箱は例外でしたが、器具と調度品の大きさと数は、彼の拡大された表現のために大いに拡大しました——列王上6:2, 20. 歴代下4:1-8. 参照、出26:3, 16, 18, 22-24, 33。
- C. 幕屋が予表しているのは、地上にある神の召会、あるいは各地方にある神の召会です。宮が表徴しているのは、キリストのからだの実際としての召会です。諸地方召会は尊い手続きであって、わたしたちを神のエコノミーの栄光の目標であるからだの実際へともたらしめます——エペソ1:22-23. 参照、啓21:10-11。
- D. 唯一の務めは神の唯一の証しのためです。神の唯一の証し、すなわち、キリストのからだの実際は、諸地方召会において実際化されます——出25:22. 38:21. 啓1:2, 9. 参照、エペソ4:4. ヨハネ16:13。
- E. I コリント第12章で描写されているからだは、一つの地方召会が持つべき証しであり、それはからだの証しです。今日の地方召会は、キリストのからだの実際を表現する証しでなければなりません——I コリント12:14-18, 20。
- F. 召会は一の証しのために存在しています。わたしたちが「地方召会」に言

及するとき、わたしたちの強調点は召会にあるのであって、「地方」にあるではありません。諸召会が所有している命は一の命です——ヨハネ17:11, 21, 23. 啓1:10-12。

- G. キリストのからだの実際の証しは、神の最終の回復です。すなわち、神の永遠のエコノミーの回復であって、それはキリストがわたしたちのすべてであることの回復、キリストのからだの一回復、キリストのからだのすべての肢体が機能することの回復です——I テモテ1:3-6. 6:3-5. ヘブル13:9. エペソ1:17. 3:2, 8-11, 16-21. 4:1-6, 16。

Ⅲ. ダビデとソロモンは、神の建造のための二つの面におけるキリストを予表しています：

- A. ダビデが予表するのは、肉体と成って、神・人の生活をし、苦難を受けて死に至るまで（飼葉桶から十字架まで）のキリストです——マタイ12:3-4. 22:41-46。
- B. ソロモンが予表するのは、栄光の中にある復活のキリストが、命を与える霊としてわたしたちの中で（彼の御座に着くことと、二度目に来臨して地上の彼の王国を治めることを含む）、神の知恵の言葉を語って、神の宮としての召会を建造することです——マタイ12:42. 歴代下1:10. I コリント1:24, 30. 12:8。
- C. 神は、「証しをして言われました、『わたしはエッサイの子ダビデを見いだした。彼はわたしの心にかなう者で、わたしの意志をことごとく行なうであろう』」（使徒13:22）。ダビデは、「神のみこころによって彼自身の世代に仕え……ました」（36節）。彼は神の心にかなう人でした（サムエル上13:14）。なぜなら、ソロモンが証ししたように、「エホバ・イスラエルの神の御名のために家を建てることは、わたしの父ダビデの心にあった」からです（列王上8:17-20. 参照、エペソ1:5, 9. I コリント12:12-27——参照、13節のフットノート2）。
- D. ダビデは若い時から苦難を受けました。しかし、彼は苦難を通して材料を用意し、宮を建造するための正しい立場を獲得し、建造者ソロモンとすべての助け手を用意しました——歴代上21:18-30. 歴代下3:1. 歴代上28:9-11, 20-21。
- E. ダビデが神の宮を建造するために、材料をおびただしく用意したことは、キリストが彼の計り知れない豊富をもって、神の召会を建造するために備えることを予表します——歴代上18:7-11. 22:2-5, 14-16前半. 28:2. 29:2-9. 参照、エペソ3:8-10。

- F. ダビデが困難の中で（歴代上22:1, 14）、試練の中で、彼の戦いの勝利の中で用意したことは、キリストが神の召会を建造するために、試練の中で、彼がサタンとその暗やみの勢力と戦う生活における勝利の中で（マタイ4:4, 7, 10）、豊富に備えることを予表します。
- G. ダビデに与えられた宮の様式は、「霊によって感動されて彼が持っていたすべての様式」でした（歴代上28:12）。「ダビデは言った、『このすべて、すなわち様式の詳細すべてを、エホバは明らかにしておられる。それは、わたしの上で彼の御手によって書かれた物である』」（19節. 参照、Ⅱコリント3:3）。ソロモンが建てた宮は、この様式にしたがっていました（歴代上28:11）。
- H. ダビデが神に対するイスラエルの奉仕の順序を案配することは、神の宮と関係があり（歴代上6:31-48. 第23章—第26章）、新約において、その霊が召会の奉仕の順序を案配することを予表します（Ⅰコリント12:4-27）。それはさらに、からだのかしらとして、キリストが彼のからだの中で順序を設け、すべての肢体に保持させたことを予表します（Ⅰコリント12:18. 14:40）。
- I. 召会の青写真は、復活の霊、すなわち、すべてを含む、命を与える、複合の、内住する霊です。わたしたちがわたしたちの霊の中の復活の霊の中で生きる時、ソロモンがダビデの設計にしたがって（キリストの神・人の生活、死、復活のすべての成分をもって）宮を建てたことの実際が、わたしたちの内側で成就されます——ヨハネ2:19. ピリピ1:19. エペソ1:17. 2:22. 3:5, 16. 4:23. 5:18. 6:18。
- J. ソロモンの名は、「平安」を意味します。これは、召会が「安息の人」としてのキリストによって、平安の中で、何の騒音もなく、建造されることを意味します——歴代上22:9. 使徒9:31. エペソ4:29-32：
1. 宮の建造に用いられるあらゆる石は、原則において、すでに山で切られ処理（対処）されてきました。ですから、槌や斧や鉄の道具の音は聞こえず、宮は静かに建てられました——列王上5:15-18. 6:7。
 2. もし主によって対処されていない兄弟（ずっと話し続け、良い聞き手ではなく、それゆえ更新されていない思いを持っている人）が長老になるなら、召会は槌や斧や鉄の道具の騒音で満たされるでしょう。いくつかの「騒音」は、特定の聖徒たちが互いの祈りを打ち消し合う祈りをすることによって、互いに争うことであるかもしれません——参照、イザヤ50:4-5. エペソ4:23。
 3. 召会の中で、もしわたしたちが他の人の批判、裁き、議論、反対を聞く

なら、わたしたちは至聖所の中へと退くべきです。すなわち、わたしたちの霊の中へと退き、わたしたちの霊に戻るべきです。宮は静けさの中で建造されます——ガラテヤ6:17-18。イザヤ30:15前半。

4. 契約の箱が納められた後、ダビデがエホバの家の歌の奉仕に立てた人たちは、ソロモンがエルサレムにエホバの家を建造するまで、集会の天幕の前で歌をもって務めをしました——歴代上6:31-32。
- K. わたしたちは「王と共に住み、同労して」、彼を十字架につけられ復活したキリストとして享受して、彼ご自身はわたしたちの中へと建造され、わたしたちは成就されて神の家としての召会の中の柱となります——補充本詩歌801番。歴代上4:23。列王上7:17, 21。啓3:12。
- L. わたしたちはすべてを含むキリストを、復活の力として、また手順を経た三一の神の復活し命を与える霊として享受することによって（真のさらに大いなるソロモンとしてのキリストを指す）、キリストの苦難の交わりにあずかり、祈りの人としての彼の神・人の生活をもって、彼の死に同形化されることができ（真のさらに大いなるダビデとしてのキリストを指す）、これは彼のからだ（真のさらに大いなる宮）のためです——ピリピ3:10。ローマ8:11。マタイ12:3-4, 42。ヨハネ2:19-22。Ⅱコリント6:16。

© 2022 *Living Stream Ministry*